

## 成田よしのり

32才

## 被災地でのボランティア報告



3月11日に発生した東日本大震災から2か月が経過しました。この間、被災地にボランティアとして参加させていただきました。千葉県内の手伝いから始め、茨城県、福島県、岩手県に物資の輸送などを11日間行っていました。また、宮城県では、宿泊場所（友人宅）が確保できたことから、18日間にわたり活動することができました。（同会派である宮崎・岡田両議員を始め先輩議員、さらには農業委員会等関係者のご理解ご協力に感謝）この経験を四街道市の防災に役立てるよう一層努力したいと感じています。



宮城県では直接被災地での活動となりました。テレビや新聞等で連日報道されておりましたが、現地は、全く異なる場所として感じられました。中越地震の際に、十日町市でのボランティア経験がありますが、津波のすさまじさという物を前に、啞然としたのを覚えています。

メディアの報道的な話ではなく、現地では、何が足りないかを意識して活動するように努めてきました。一般的にボランティアの活動は、支援物資の仕分け、思い出探し隊（地震と異なり、津波はそこにあった物を留めることなく、全てを流してしまいます。そこで、思い出の品々を探し、できる限り綺麗にして、所有者に渡すための活動）、泥あげ（泥かき）、炊き出しや身の回りの補助、（避難所等への）引越しの手伝い等となりますが、場所によっては電気や水がない状況の場所等、必要な仕事が異なったり、ボランティアの手が多い所とほとんどいない場所との違いもありました。他のボランティアの人たちと協力しながら、物資の運搬作業による生命維持の段階の場所がありましたので、まずはそこで作業を進めつつ道路やインフラの復旧を待ちました。そして、ある程度インフラも復旧し、個別の対応が出来る状況となった後に、私は泥あげを主に手伝いました。数日間は風呂もなく、余震の続く中、ヘドロの除去作業が続きました。身体を水で一応洗ってはいりましたが、湯船に入った時は少し感動したのを覚えています。そして、ある程度ボランティアセンターが上手く機能しだしてからは、他の人手の足りない別の場所へと移動し、活動を続けていきました。



## 1日の活動内容

8:00~9:00	ボランティアセンターにて受付
9:00~16:00	個人宅にて屋内内の泥かき及び家具の処理等
18:00~20:30	別のセンターにてタンクに入った水を避難所へ輸送
22:00	センター帰還及び必要な物資や状況の報告をして終了

## 活動を通じて

東日本大震災において亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますと共に、被災者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。四街道市において、自然災害に迅速に対応するためには、まずは日々の積み重ねが大切です。また今回は、数日ではなく腰を据えて活動をする事ができましたので、様々な事を見聞きし、行政として現在足りない点や課題も多く感じ、また改めて確認する事もできました。今回の体験を活かし、四街道市を災害から守るために必要な事を訴え、万が一災害が発生した時に即時の対応が図られるよう改善をしていきたいと痛感しました。

ボランティアという人の手が入ることにより、住んでいる方が少しずつですが希望を見出していただけのような気がしました。避難所におきまして避難者の方が、「これからまた一歩ずつでも前に歩こう」とおっしゃっていたのが印象的でした。